



「iPad mini」で3000円？アップル製品の値上げ迫る



アップル製品を購入する予定があるなら、お早めに！日本で販売されるアップル製品に値上げが迫っているからだ。理由は急激に進んでいる円安。過去の円安時にも、アップルは予告なしに値上げをした「前科」がある。一体、どの程度の値上がりになるのだろうか？

円安で値上げを繰り返してきたアップル

アップルは2014年11月14日に「iPhone6」の販売価格を最廉価モデルで6万7800円（税別）から7万5800円（同）へ、8000円（11.8%）値上げした。「iPhone6」が発表された同9月10日の為替相場は1ドル＝106円12銭、それが同11月14日には同116円15銭と10円03銭も円安に振れた。アップルは為替差損を回避するため、日本での価格を値上げしたのだ。

円安で2度も値上げされた「iPhone 6」（同社ホームページより）

しかし、円安はさらに続く。2015年3月10日には同121円47銭と11月14日比で5円32銭 \boxtimes の円安に。アップルは同日、「iPhone6」を8万6800円（同）へ、一気に1万1000円も値上げした。最初の価格からは15.35円の円安で1万9000円も引き上げられたことになる。

アップルの最新機種である「iPad mini」（第6世代）や「iPhone13」シリーズなども、発表された2021年9月15日の同109円65銭から、10月18日には同114円27銭と4円62銭（4.2%）の円安に。「iPhone6」の初回の値上げ時の3分の1程度の円安だが、2回目の値上げ時の2倍の円安となっており、円安に伴う値上げの可能性は十分にある。

「iPad mini」は最低でも3000円超の値上げか

では、現行の「iPad mini」や「iPhone13」が値上げされるとしたら、いくらになるのか？これは判断が難しい。アップルの値上げ額が円安幅と一致しないからだ。「iPhone6」の場合、初回の値上げは円安幅とほぼ同じ11.8%だったが、2回目は円安幅が初回値上げ時との比較で5.32%だったにもかかわらず14.5%も値上がりした。

「iPhone 6」の初回は円安1%当たり1.2%の値上がりで、この割合ならば4.2%の円安を受けての値上がり率は5.2%になる。「iPad mini」は現行の5万9800円（税込）から3120円高い6万2920円（同）に、「iPhone13」は9万8800円（同）から5154円高い10万3954円（同）となる計算だ。

一方、2回目は同3.1%の値上がりで、値上がり率は13.2%となり「iPad mini」は7917円高い6万7717円（同）に、「iPhone13」は1万3080円高い11万1880円（同）に急騰する。おそらく今回の円安の値上がりも、それらの範囲内に収まるだろう。

これまでアップルは、予告なしに値上げに踏み切ってきた。おりしも日本時間の2021年10月19日未明に、アップルは新型「MacBook

Pro」を発表する。これに併せて現行製品の値上げに踏み切るかもしれない。現行機種の「iPad mini」と「iPhone13」の発表時には、従来製品の「iPhone SE」（第2世代）を520円値上げして4万9800円（同）に価格改定している。

新製品発表前に一時休止するアップルのネットショップ。再開時には現行製品が値上げされているかも…（同社ホームページより）

当面、円安は続く見通しで、2度目、3度目の値上げも懸念されそうだ。現在「iPad mini」は出荷まで1カ月待ちの人気商品だが、ネット販売では発注時の価格で購入が可能だ。現行のアップル製品を購入する予定があるのなら、1日も早く注文しておきたい。

文：M&A Online編集部